

「釧路湿原自然再生協議会」

第 12 回 湿原再生小委員会

資 料

平成 25 年 1 月 24 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

－ 第 12 回「湿原再生小委員会」－

日 時：平成 25 年 1 月 24 日（木） 13:30～15:30

場 所：釧路市観光国際交流センター 2 階視聴覚室
（釧路市幸町 3 丁目 3）

----- 議 事 次 第 -----

1. 開 会
2. 自己紹介
3. 第 6 期湿原再生小委員会の委員長及び委員長代理の選出
4. 議 事
 - 1) 幌呂地区湿原再生における未利用排水路の埋め戻しについて
 - 2) 達古武湖自然再生事業実施計画（案）について
 - 3) 広里地区自然再生における今年度調査実施状況について
5. 閉 会

----- 配 布 資 料 -----

- ・ 議事次第
- ・ 湿原再生小委員会 委員名簿
- ・ 第 12 回湿原再生小委員会 出席者名簿
- ・ 幌呂地区湿原再生
- ・ 達古武湖自然再生事業
 - ▶ 達古武湖自然再生事業実施計画（案）に対する意見と回答及び今後の方針について
 - ▶ 達古武湖自然再生事業実施計画（案）に対する意見と回答及び今後の方針について 補足資料
 - ▶ 達古武湖自然再生実施計画（案）の主な修正点
 - ▶ 達古武湖自然再生事業実施計画（案）
- ・ 広里地区における今年度の調査実施状況について
- ・ 第 11 回湿原再生小委員会ニュースレター
- ・ 意見・要望アンケート用紙

釧路湿原自然再生協議会
湿原再生小委員会 委員名簿

計：43名

■個人(16名)

(敬称略、五十音順)

No	氏 名	所 属
1	植村 滋	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター
2	金子 正美	酪農学園大学 環境システム学部 地域環境学科 教授
3	亀山 哲	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生態系機能評価研究室 主任研究員
4	神田 房行	北海道教育大学 教授
5	木村 勲	
6	清水 信彦	
7	新庄 興	
8	新庄 久志	釧路国際ウエットランドセンター主任技術委員 (環境ファシリテーター)
9	杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)
10	中村 隆俊	東京農業大学 生物産業学部 講師
11	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
12	松本 文雄	
※ 13	三上 英敏	北海道環境科学研究センター 環境保全部水質環境科
14	矢部 和夫	札幌市立大学 教授
15	山田 浩之	北海道大学 農学部 講師
16	杉澤 拓男	

■団体(18名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路川カヌーネットワーク	会長 小川 清史
※ 2	釧路国際ウエットランドセンター	理事長 蝦名 大也
3	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
※ 4	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	代表幹事 鈴木 久枝
※ 5	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 蝦名 大也
6	公益財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
7	公益財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウウサシクチュアリ	チーフレンジャー 有田 茂生
※ 8	公益財団法人 北海道環境財団	(専務理事 齋藤 卓也)
9	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
10	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
11	鶴居排水路維持管理組合	組合長 瀬川 勝巳
12	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
13	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 赤松 里香
14	特定非営利活動法人 釧路湿原やちの会	理事長 杉山 伸一
15	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
16	北海道標茶高等学校	校長 西田 丈夫
17	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤
18	ボランティアネットワークチャレンジ隊	代表 佐竹 直子

■オブザーバー(3団体)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
2	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 瀧澤 義一
3	鶴居村商工会	会長 大津 泰則

■関係行政機関(6機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 岡部 和憲
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 西山 理行
3	釧路市	市長 蝦名 大也
※ 4	釧路町	町長 佐藤 廣高
※ 5	標茶町	町長 池田 裕二
6	鶴居村	村長 大石 正行

※第6期(前期)新規構成員

湿原再生小委員会の検討経過

	議事
第 1 回 H16. 2. 17	1) 全体構想と小委員会との関わりについて 2) これまでの調査・検討経緯について (1) 広里地区湿原再生について (2) 幌呂川地区湿原再生について (3) 雪裡樋門湛水試験について 3) 今後の調査・検討方針について
第 2 回 H16. 6. 25	1) 平成 15 年度の調査・検討成果について 2) 平成 16 年度以降の調査・検討方針について 3) 全体構想との関わりについて
第 3 回 H17. 5. 11	1) 小委員長選出について 2) H16 年度調査検討結果と H17 年度調査検討計画について (1) 釧路湿原の面積について (2) 釧路湿原全域動植物調査の概要 (3) 広里地区 (4) 幌呂川地区 (5) 関連する農業整備事業について (6) 雪裡樋門地区
第 4 回 H20. 3. 3	1) 幌呂地区の変遷と現状 2) 幌呂地区で生じた現象と課題 3) 幌呂地区の湿原再生目標の設定 4) 広里地区の湿原再生
第 5 回 H21. 3. 18	1) 幌呂地区の湿原再生目標の概要 2) 幌呂地区 平成 20 年度の調査結果 3) 平成 21 年度の予定
第 6 回 H22. 9. 2	1) 幌呂地区湿原再生について 2) 広里地区湿原再生について 3) 釧路湿原の面積について 4) 5 年目の施策の点検について
第 7 回 H23. 1. 19	1) 幌呂地区現地植生回復試験について 2) 幌呂地区湿原再生について 3) 5 年目の施策の振り返りについて
第 8 回 H23. 4. 27	1) 幌呂地区現地植生回復試験について 2) 幌呂地区湿原再生のリファレンスサイトについて
第 9 回 H23. 10. 20	1) 幌呂地区湿原再生（基本方針）について 2) 幌呂地区湿原再生（実施方針）について 3) モニタリング計画について 4) 広里地区自然再生について （旧農地区域の湿原への再生、ハンノキ林の取扱いの検討） 5) 釧路湿原の面積について
第 10 回 H24. 1. 18	1) 幌呂地区湿原再生実施計画（案）について 2) 達古武湖における湿原再生の取り組みについて 3) 釧路湿原の面積について
第 11 回 H24. 11. 8	1) 幌呂地区湿原再生 今年度の実施予定等について 2) 達古武湖自然再生 達古武湖自然再生事業実施計画（案）について 3) その他 広里地区湿原再生事業実施計画の策定について

第 11 回湿原再生小委員会の発言概要と今後の検討方針（案）

項目	発言概要	回答および今後の検討方針（案）	備考
幌呂地区湿原再生今後の実施予定等について	・ 前回、「排水路の埋め戻しに用いる土は、もともと農地利用するために置土した土（地盤を掘り下げた土）をそのまま利用する説明があり、本来、湿原にない栄養分を含んだ土であるため、湿原環境を保全するためには良くないのではないか。」との問いに、「土壌の栄養分調査を実施し、栄養分が高い場合は用いない。」との回答であった。その後は実施計画に生かされているか。 ・ あまりにも養分濃度が高い場合は、排水路の埋め戻しに用いないことで良いか。	・ 土壌の栄養分については、以前に調査を行っているので、調査結果を確認したい。	
	・ オオアワダチソウを除去した後の処理はどうするのか。 ・ 種子が表面に残っていると、オオアワダチソウが再生する可能性があるため、注意深く実施して欲しい。	・ 未利用の排水路の底のほうに、土砂と一緒に埋め戻し、上に土砂を被せることで考えている。	
達古武湖自然再生実施計画（案）について	・ 達古武湖の水位（水深）の変化は把握しているか。達古武湖には外来種であるコイが生息しているが、生態系に与える影響はないか。	・ 達古武湖の水深は少しずつ浅くなっている。コイについては問題が出ていないが今後検討したい。	
	・ 達古武湖の水質悪化について、キャンプ場の影響はないか。	・ キャンプ場からの栄養塩の流入は全体の 1 % 程度と非常に小さい。	
	・ ヒシを除去することにより湖内にある窒素・リンをどれくらい減らせるのか、定量的な評価が必要。除去したヒシの乾燥重量を計測し、除去された窒素・リンの量を調査してはどうか。	・ 本事業では、ヒシの除去は窒素・リンがどれくらい減るのではなく、水生植物がどれくらい増えるかを指標に進めていきたい。	
	・ 春採湖のデータがあるのでヒシ除去の効果を試算してみてもいい。	・ 検討する。	
	・ ヒシ除去後のアオコやウチダザリガニのモニタリングはどうするのか。	・ モニタリングを行う。植生についてはバランスをとりながら徐々に入れ替わるように進めたい。	
	・ 南部湿地の堆積家畜糞尿は具体的にどのように除去するか。	・ 現時点では、冬季に土壌が固まったところで重機により除去を実施するのが適当と考えているが、具体的には今後検討していく。	

	・ 釧路川からの逆流による栄養塩流入はどのように評価しているか。	・ 釧路川から逆流する栄養塩については数値で評価しているものの、これは達古武湖だけで対応することが難しいため、釧路湿原自然再生事業全体で検討していきたいと考える。	
	・ 上流河川からの土砂が南部湿地に溜まることで、達古武湖に流れ込む水質を改善しているのではないか(沈砂池のような効果があるのではないか)。	・ 今回除去する予定の南部湿地の堆積物は上流からの河川堆積物ではなく、人為的に投棄された家畜糞尿であることが分かっている。南部湿地の家畜糞尿除去は現時点で水質改善の主対策と考えられる。	
	・ 除去を行うのは冬季か。周辺にタンチョウが生息していることから配慮が必要。	・ 冬季に実施する予定であり、タンチョウに配慮しながら適切に実施する。	
	・ 南部湿地の堆積物はいつごろ判明したか。ぜひ対策を実施されたい。	・ 東部湖沼自然環境調査の検討委員達が 2008 年に調査を実施し、堆積が判明した。除去を実施する。	